

●カーシェアリングの使い勝手は？

私ごとですが、長年所有した自家用車を先だって手放しました。理由はさておき、手放すことを決めたきっかけのひとつに、カーシェアリングの存在がありました。カーシェアリングは現在、主にリース業やレンタカー業などを営む事業者が主体となり、大都市を中心に普及が進んでいます。私の自宅近傍でも近年、カーシェアリングの貸出場所が開設されました。

私が入会したカーシェアリングでは、会員登録（入会費数千円）が必要で、自動車の利用如何に拘わらず月会費（1,000円程度）が別途かかります。利用したいときには電話かインターネットで予約を入れます。貸出料金は15分ごとに260円で、実走距離1キロごとに14円加算されます。3時間借りて20キロ走ると料金は3,400円で、ガソリンの満タン返しはありません。これらの料金はクレジットカードで決済します。

貸出場所は大半が一般的な月極駐車場で、つまり無人状態です。自動車のキーは車内に格納されており、これを取り出す必要があるのですが、会員証が自動車の外鍵を兼ねており、遠隔操作でドアを開ける仕組みになっています。これまで数回利用しましたが、レンタカーに近い感覚で利用でき、身近な外出には何の支障もありません。もっとも、当然ながら予約時間内に返却が必要ですので、外出先でも時間を意識しなければならぬ煩わしさはあります。

自動車は軽自動車で、法規制上はレンタカーとしての扱いのため、ナンバープレートは「わ」ナンバーです。今後「わ」ナンバーの軽自動車を見かけることがありましたら、それはカーシェアリングかもしれません。

津端知也（第二計画部）

●まちづくり・路地・市民・観光

歴史的建築を活かした中心市街地の再生というテーマで、別府で講演をさせていただく機会があった。別府は日本一の湯量を誇る温泉街だが、実は多様な路地境界線が広がる街でもあった。別府の路地境界線は飲食店や風俗店が集積しているところ、ひっそりとしているところ、市民の手によって再生されつつあるところなどさまざまがあり、ところどころに市民のための温泉が点在している。

私は東京・神楽坂のまちづくりに参加している。神楽坂も路地のまちであり、神楽坂と別府の路地では様相が様々に異なるものの、共通なのは、歴史を重ねた生活や生業が息づく都市そのものであること、他を持って替え難いこと、社会経済的状况に伴って大きく変わりつつあること等である。

路地境界線には老朽化、防災等の課題はあるが、地域独自の資産を活かして心地よい生活環境、面白い商業、歩いてワクワクする都市を実現していくことは、これから成熟した都市社会や文化のストックを形成していくうえでとても大切なことである。

神楽坂では、数年前から路地を中心とするまちのコンシェルジュを定期的に行っている。他のまちでも同様の取り組みがあり、長崎市さるく博では市民が主役になってまち全体をガイドし、歩き、語ることで新たな市民意識と観光まちづくりが醸成されていると聞く。市民、生活環境、福祉、地場産業、歴史、観光などが、路地によって再びネットワークされつつある。

文責者：鈴木俊治（ハーツ環境デザイン代表、NPO粋なまちづくり倶楽部理事）  
紹介者：高尾利文（第二計画部）

●減築

街なかを歩いていたら、道路の拡幅のため、アパートの一部がきれいに取り払われていました。【写真】<http://www.almec.co.jp/info/news4.html>

2スパンが取り払われ、かわって非常階段が取り付けられていました。減築というのでしょうか。場所は、埼玉県ふじみ野市の上福岡駅南の踏切近くです。

高尾利文（第二計画部）

---

発行責任者：代表取締役 庄山 高司  
事務局：株式会社アルメック 業務部  
東京都目黒区青葉台 1-19-14  
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210  
Eメール [hotnews@almecc.co.jp](mailto:hotnews@almecc.co.jp)  
ホームページ <http://www.almecc.co.jp/>

---

Copyright 2008 ALMEC Corporation. All rights reserved.